

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者の気持ちになって、その人らしい暮らしが続けられるようにどう支えていけばよいか、職員全員で検討しあい独自の理念をつくり上げた。また、地域の中で暮らすということをどう支援していけばよいか考え、話し合っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ご利用者の日々の暮らしを支えていく為の志として常に目に届くところに掲示し日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご利用者が、施設の中だけではなく「地域の中で暮らす」ということを家族や地域の自治会、民生委員、近隣住民等に理解してもらえよう事業所の説明をしたり協力を依頼したりしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事にふれあったり、出退勤時に出会う近隣の方に気軽に声掛け合うなど、日常的な付き合いが出来るよう努めている。また、近隣から見学を兼ねて事業所の内容を聞きに来られることもある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、通学路になっているので学童児の「おたすけハウス」等の表示をするなどPTAとの協力もある。地域の公民館で開かれる催しに参加し地元の方々と交流することに努めている。地域の中学生の職場体験学習を受け入れている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域で暮らす高齢者の方に役立ててもらおう為、認知症サポーターとして活躍できるよう研修等に参加したり、事業所で出来ることを話し合ったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は、評価の意義を理解し年に1回自己評価を行ない意見交換や改善点について話し合っている。外b評価実施後は、評価の内容について問題点の解決に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所での活動報告をし意見や評価をもらっている。議事内容は、職員、家族等にお便りなどで伝達している。事業所が地域の中で孤立してしまわないよう時にはメンバー以外の会議参加者を参入し情報交換などを行いサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営に関することや相談ごとなど、出来るだけ市町村に出向き話す機会をつくっている。また、市町村が行なう研修等に参加し意見交換やスキルアップ、質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者・職員は、権利擁護、成年後見制度についての研修等に参加し知識を得るようにしている。必要な方にはそれらを活用できるよう支援する体制がある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は、高齢者虐待防止関連の研修等でそれらを学び、ご利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされないように、ご利用者の訴えや身体に注意を払い防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約の際は、ご利用者、ご家族等に十分な説明と疑問点を尋ね理解・納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常から、ご利用者の意見、不満、苦情を聞く機会を設け、介護相談員の報告等も運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の日頃の様子や健康状態、事業所の変化等を毎月発行するお便りや個々にあわせて随時、報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、または、家族会や運営す新会議等で、ご家族等からの意見、不満、苦情を表せる機会を持ちそれらを運営に反映させている。意見箱の設置もあるが活用はされていない。直接、管理者や職員に言ってこられることが多い。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設け運営者に相談したり、反映できるよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者やご家族の状況の変化等に柔軟に対応する為に、必要な時間帯の勤務調整や職員配置の話し合いをし対応できるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご利用者が馴染みの職員等の支援を継続できるように、異動や離職を最小限に抑える努力をしている。産休や育児休暇中もスムーズに復帰できるように、ミーティング及び行事の参加など利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で研修計画を立て、全職員が受けることができるようにしている。認知症の専門職として知識・技術の向上の為、様々な研修を受けるようにしている。また、月に1回、事業所内で勉強会を開いている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じて、他事業所との交流や研修会等に参加し情報を参考にサービスの質の向上となるよう努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の個性に合わせて得意なことが発揮できたり、苦手な部分を支えられるよう教えあう機会が持てる工夫をしている。個別に話を聞いたり、シフト(休日等)の希望を募ったりしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は、事業所内の各所の担当になり責任を持って管理している。各自が勉強したことや研究したことを勉強会、家族会などで発表出来る機会を設けている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用が決定し入所されるまでに、数回自宅を訪問し困ったことや不安なこと、求めていること等を聴き、信頼関係を築けるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用が始まるまでに、ご家族の困っていることや不安なことなどを聞く機会を持ち相談・助言等の支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、ご本人・ご家族がどのような状況なのかを把握し、必要な支援を見極めてニーズに適したサービスが受けられるよう対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が安心して利用ができるように、事前に見学をしていただき談話やレクリエーションに参加していただいたりして、職員、他のご利用者、場の雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ご利用者と共に生活をするという姿勢で対応し、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし学んだり支えあう関係を築いている。和裁や料理等、昔取ったきねづかで学ぶこともある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と共にご本人を支えていく姿勢があり相談しあったり行事などを一緒に楽しんだりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式等の情報シートを活用し、これまでのご本人とご家族との関係を理解しより良い関係が築いていけるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつも使っていた食器類や思い出の品、馴染みのイスやタンス等は持ち込み、理美容室に行く習慣は場所は変わっても出かける支援をし、回数は減っても墓参りにいくなどの支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良いご利用者同士や相性を把握し、食事の席やレクリエーションの方法等を考慮し支えあえるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した後も、移り変わった施設等へ面会に行ったり年賀状を出す等、その後の様子が分かるよう付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式等の様式を使い、思いや意向の把握に努めている。ご家族と相談したり本人の様子を見ながらニーズの把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式等を用いこれまでの暮らしの把握に努めている。少しでも多くの情報をもらう為ご家族にもシートを渡し時間をかけて記入してもらっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの力量や1日の過ごし方を、日々の暮らしの中で支援しながら把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らす為、状況に応じて話し合いをしご家族、職員、関係者の意見を反映させた介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、毎月、担当職員が他職員とでモニターリングを行いプランの評価や見直しを行ない現状に即した介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアは個別に記録し実践、結果、気づきなど記入するようになってきている。毎日の送りで報告したり話し合いをしたりし介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診にご家族が行けない時の代行、個々の買い物付き添い、自由な時間の面会や外出等、状況に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	事業所が孤立してしまわないように、出来るだけ地域資源を活用し民生委員、ボランティア、警察、学校と協力しながら支援している。運営推進会議、楽器演奏慰問、職場体験、おたすけハウス、離設時の情報など。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、サービス事業者と話し合い他のサービスを利用する支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーでもあり、総合的に相談したり協力し合うようにしている。認知症キャラバン・メイトの活動を計画している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望するかかりつけ医の継続と情報交換を行い、適切な医療が受けられるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関である事業所関連の病院は、認知症に詳しい医師が在職しているので相談したり、診断や治療が受けられるよう支援する体制がある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所や訪問看護の看護職員に気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご利用者が入院した時は、情報交換や相談をしながら早期に退院できるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、家族等ならびにかかりつけいと早期に繰り返し話し合い、一つひとつ確認をしながら全員で方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りまでを希望するご家族が増えてきているため、看取り介護についての研修に参加し知識の習得と、できること・出来ないことの見極めやかかりつけ医との相談等、チームとして支援できるよう備えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの時は、双方で情報交換しその時期や予測できるダメージ等について本人に関わる関係者と十分に話し合いをし見学や体験利用を試みながら環境を整えるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、トイレ時の声かけやさりげない更衣の手伝い、入浴時の気遣い、物忘れに対する対応の仕方など本人を傷つけないよう支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思で生活できるよう、力に合わせた説明で物事を選択や働きかけを行い自分らしく暮らしていけるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、その人らしい暮らしが出来るよう本人のペースや希望に沿って支援している。認知症によってその人らしい暮らしが壊されないように健康管理や支え合いの生活を支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昼夜間で衣服の区別をし、TPOにあわせて衣服を選択したりお化粧の習慣が維持できるように支援し、本人の望む理美容の店にいけるよう努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力量や好み、咀嚼・嚥下の状態等を考慮し食事形態を変えたり、食事が楽しみなものになるように買出し、調理、配膳、片付け等を一緒に行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好のものは、本人の状態に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し気持ちよく排泄できるよう支援している。出来る限りオムツの使用を避けトイレでの排泄を大切にしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ生活習慣にあわせた入浴時間(夕刻～)に支援できるようにしている。本人の健康状態や希望に応じて入浴を楽しめる様に支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間はその方の希望の時間に合わせ、安心して気持ちよく休めるよう生活習慣(就寝までに時間にTVを見たり、お茶を飲んだり、おやつを食べたり)を大切にしている。その方の状態に応じて、日中も仮眠を取ったり休息できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の存在感や暮らしがここにあると実感できるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、日課、外出、外食、近隣の変化を楽しむ散歩等、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心したり、買い物で支払いをすることで金銭感覚を持ったりとお金を持つことの大切さを支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋内で過ごしがちになるので、希望に沿って散歩やドライブ、買い物など出かけられる支援をしている。月に1度は全員で出かけたりもする。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	概ね月に1回、普段では行けないところや行ってみたいところに個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者がご家族や大切な人に連絡を取りたい時は電話や手紙等のやり取りができるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人等はいつでも訪問できるようになっており、訪問時は場所やお茶出し等に配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は身体拘束廃止推進委員の研修を受けており、全職員に周知し実践している。他の職員も毎年、それに関する研修等に参加している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけるこへの弊害を理解しており、玄関や居室には鍵をかけていない。ご利用者の状況で門扉の鍵はしている時があるが現在、全て鍵はかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、ご利用者のプライバシーに配慮しながら所在の確認や様子を把握し安全に過ごせるよう支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や刃物類など危険性のあるものは決められた場所に収納し必要な時に取り出すようにしている。所定の場所に無い時はお互い注意しあっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策マニュアルを作成し周知している。ご利用者一人ひとりの状態に合わせて事故防止策を実施している。災害に備えて、備食品やハザードマップで避難場所の確認をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ご利用者の急変時や事故に備えて、応急手当の方法や救急蘇生法の研修を受けている。施設にはAEDを設置し定期的に点検をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時等に備え避難方法を身につけ近隣にも協力してもらえるよう働きかけている。年に2回消防訓練を行ない、常に避難場所を認識する為ハザードマップを掲示している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体機能の低下や認知症による理解力の低下等によって様々な危険性があるが、出来るだけその人らしい暮らしを継続する為に抑圧の無い支援策を家族等とも話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日健康チェックを行い、記録・報告・伝達し把握している。変化がある時は、速やかに対応できる体制がある。週に1回訪問看護も状態把握をしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者の服薬について、作用・副作用・用量・用法等の理解をしており、服薬支援や症状の把握に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の及ぼす影響を理解しており、排泄・水分量のチェック・運動・食事の工夫など行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時や毎食後の歯磨き支援や義歯の洗浄など口腔内の清潔保持に心がけている。また、訪問歯科による検診や指導を受け口腔内の健康にも取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は出来るだけ多種の食品が取れるようバランスや量に配慮し、摂取量・水分量をチェックしている。ご利用者の状態に合わせて食事形体や好みの工夫で摂取量の確保に努めている。また、互いに評価し合えるよう検食表を作成している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成し周知している。毎年、インフルエンザ予防接種を全利用者・職員が受けている。感染に関する研修等に参加したり勉強会を開いたりしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、毎食分の買出しをし新鮮なものを使用している。残った食材や冷蔵庫内の食品は定期的にチェックしている。冷蔵庫内の清掃・消毒を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲は、地域の戸建てと特段変わりなく親しみやすい環境にある。見通しも良く気軽に出入りできるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や小物を飾り、食堂や居間は光や音に配慮し居心地良く過ごせるよう工夫している。トイレ・浴室は常に清潔にし整理整頓している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、思い思いに過ごせるよう気の合う同士や安楽な工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は環境の変化を最小限に留める為、こだわりのあるものや馴染みの物を持ち込んでもらい遠慮や違和感がなく居心地良く過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ご利用者の起床後は空気入れ替えを行い、就寝時は気持ちよく睡眠が取れるよう随時、空調の調節を行なっている。日中も各部屋、廊下等と温度変化が少ないよう気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活は、残された身体機能を活かせるよう手すりの設置や物の高さ(洗面台・物干しなど)に工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	季節や日時が分かるように各部屋にはカレンダー、時計を置いている。部屋が分からなくなる方は目印等の表示をし自分で戻れるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に花を植えたり、ベランダに布団を干す等楽しみや活用が出来るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほほ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

清潔にし、ゴミ等の臭いや建物等の外観に違和感がないように配慮している。また、ご利用者のより良い暮らしを支援できるように知識・技術の向上に努め様々な研修に参加し習得を図っている。